

第2期関西広域スポーツ振興ビジョン中間案の概要

はじめに

新型コロナウイルス感染症の流行によるスポーツイベントの中止や施設の使用制限などスポーツの機会が減少したことで、各府県市民のスポーツ参画や意識は大きな影響を受けた。ウイズコロナ・アフターコロナ時代のスポーツ施策に取り組むとともに、延期となった「東京2020オリンピック・パラリンピック」、そして「ワールドマスターズゲームズ2021関西」の開催を契機とする生涯スポーツの気運の高まりを一過性のものに終わらせることなくレガシーとして継承する。さらに、2025年の「大阪・関西万博」のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿った健康的・活動的な地域社会づくりのため、スポーツを通じた気運の高まりを推進する。そのため、令和8年度までの間に関西広域連合と構成府県市が一体となったスポーツ振興施策の取組を展開する。

1 スポーツをめぐる現状と課題

(1) 生涯スポーツの状況

- 子供の体力は、運動する子供もしない子供も、体力の水準が最も高かった昭和60年頃に比べ依然低い傾向が続いている。しかしながら、20代以上はいずれの年代においてもスポーツ実施率は増加している。また、新型コロナウイルス感染症対策による外出自粛など生活様式の変化等により、健康増進への意識は一層高まっている。
- ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツ参加の機会を提供できる総合型地域スポーツクラブ等については、持続的な運営も課題である中、今後の発展につなげるため行政との連携・協働体制の構築が求められている。

(2) 競技スポーツの状況

- 大規模競技大会の開催実績を有する競技施設が関西各地に整備されているが、府県市単独では国際競技大会や総合スポーツ大会の招致が困難であることから、大規模大会の招致・開催を継続するため、施設利用の連携ネットワークを活用する必要がある。

(3) 障害者スポーツの状況

- 地域での障害者のスポーツ活動の場が少しずつ整えられ、障害のある成人のスポーツ実施率が増加傾向にある。しかしながら、目標に対して依然低い傾向にあるため、引き続き、スポーツに関心を持ってもらう取組やスポーツ実施に関する環境整備が必要である。

(4) スポーツ人材の育成と活用

- スポーツ人材の育成は、各府県市が連携して、①競技人口の少ない種目や障害者スポーツの競技種目などのアスリートの育成、②アスリート育成に繋がる指導者・トレーナーの育成、③大規模競技大会開催に必要なスポーツ人材の育成などの取組を充実させていく必要がある。

(5) 国際スポーツ大会のレガシーの継承・発展

- 東京2020オリンピック・パラリンピックの事前合宿やワールドマスターズゲームズ2021関西の開催により創出されたレガシーを継承するとともに、広域連合内における各分野の関係者が連携してそれぞれのレガシーを相乗・発展させていくことが重要である。

2 関西が目指す将来像

◆ 生涯スポーツの拠点「生涯スポーツ先進地域関西」

日本におけるマスターズスポーツの基盤づくりを推進するため、ワールドマスターズゲームズ2021関西を開催する強みを生かしながら各府県市が円滑な連携を図り、「生涯スポーツ先進地域関西」を目指す。

◆ 競技スポーツ大会の拠点「スポーツの聖地関西」

聖地と称される競技場やスポーツ発祥の地を多く持つことの強みを生かし、日本の競技スポーツ大会の拠点として「スポーツの聖地関西」を目指す。

◆ スポーツツーリズムの拠点「スポーツツーリズム先進地域関西」

各府県市の広域的連携のもと、関西の地域観光・文化資源とスポーツとを融合したプログラムを開発・展開し、他府県からの訪問者やインバウンドの拡大を図ることで関西地域の経済活性化を促進し、「スポーツツーリズム先進地域関西」を目指す。

3 広域課題に対する戦略

◇ 戦略Ⅰ 「生涯スポーツ先進地域関西」の実現に向けた戦略

① 子供や子育て層のスポーツ参加機会の拡充

- ・ スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツ活動の活性化を図るため交流大会等を継続実施
- ・ 発育段階にある子供たちのスポーツ障害の予防の重要性を周知する事業の継続
- ・ 防災や子育てなど、スポーツ以外の分野にスポーツをリンクさせた新しいイベントの開催

② 中・高年のスポーツの振興

- ・ 日々の運動習慣の促進と定着を図り、新型コロナウイルスの影響が少なく取組めるデジタル技術を活用したウォーキング等のスポーツイベントを開催
- ・ スポーツを通じた女性の活躍を促進するため、スポーツイベント等の企画や参加形態、情報発信の充実などの方策を検討し、女性のスポーツ参画を推進
- ・ 関西マスターズスポーツフェスティバルと関西シニアマスターズ大会を統合し、「関西マスターズゲームズ2000（仮称）」を創設

③ 障害者スポーツの振興

- ・ 障害者スポーツに対する理解促進や普及を図るための体験会等の実施・拡充
- ・ 体育施設及び交通アクセスも含めた施設周辺地域全体のバリアフリー化の推進
- ・ 「関西マスターズゲームズ2000（仮称）」に、WMG2021関西の大会理念であるインクルーシブな視点を取り入れて開催

④ 地域のスポーツ振興に向けた広域的連携による支援

- ・ 関西圏域でのスポーツに関する意識や余暇の行動等についての統一的な実態調査の実施
- ・ 経済団体と連携して関西のスポーツ振興を図るため、企業表彰制度や企業アスリート派遣事業を実施
- ・ 各種スポーツ大会の開催において、家族、職域、同窓会など様々な参加形態の創出やボランティア参加の環境を整備

◇ 戦略Ⅱ 「スポーツの聖地関西」の実現に向けた戦略

⑤ 国際競技大会・全国大会の招致・支援

- ・ インバウンドの拡大が期待できる国際競技大会や事前合宿、他府県からの訪問者拡大が期待できる全国大会等の関西各地への招致を支援、各地の大規模競技施設利用に関する連携ネットワークの活用
- ・ 国際競技大会や国民体育大会（国民スポーツ大会（R7～））、全国障害者スポーツ大会等総合スポーツ大会の開催に向けた機運醸成の取組などの開催支援

⑥ スポーツ人材の育成

- ・ 府県市が連携し、競技人口が少ない競技種目や障害者スポーツの競技種目などのアスリートの育成練習会やアスリート育成に繋がる指導者・トレーナーの育成、さらには各種大会等の開催を企画・運営するなど地域スポーツの推進を担う人材育成の機会確保

⑦ 国際競技大会等のレガシー（有形・無形の遺産）の継承・発展

- ・ 「関西マスターズゲームズ2000（仮称）」をレガシー大会として開催
- ・ 関西スポーツ月間を中心にスポーツイベント等を実施

◇ 戦略Ⅲ 「スポーツツーリズム先進地域関西」の実現に向けた戦略

⑧ 広域観光・文化振興との連携

- ・ インバウンドをはじめとした国内外からの誘客や、観光・文化・スポーツ振興の相乗効果を図り、関西に集積している観光資源および文化資源、さらには聖地と称される各競技施設と、大規模スポーツイベント等の融合による広域的スポーツツーリズムのプログラムの創出・展開
- ・ 2025年の「大阪・関西万博」の国内外からの観光客に対して、関西各地のスポーツプログラム等を活用したスポーツツーリズムの創出を検討

⑨ スポーツ関連組織とのネットワーク形成

- ・ スポーツの持つ多様な価値を最大限に生かし、企業、行政、競技団体、大学、地域スポーツコミッション等、各機関が連携し、スポーツによる地域振興方策等を検討

4 ビジョンの実現に向けて

関西での生涯スポーツの振興に取り組む構成府県市や関西経済界、スポーツ競技団体等との連携・協力を一層強化し、官民連携により、ワールドマスターズゲームズ2021関西開催後も、関西のスポーツ振興を推進する方策を共同で検討していく。